

若年認知症研修の全国展開のための試行事業

特定非営利活動法人 若年認知症サポートセンター

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ605

助成事業の概要

実施目的は、本法人が実施している自主事業である若年認知症研修事業を、関西以西での研修事業を試験的に企画実施し、赤字になることなく研修実施が可能であれば、次年度以降の継続事業として実施できるかどうかを検証するため。

時期は、平成29（2017）年6月から12月であった。研修準備の時期と研修実施日を含む期間であった。

実施内容等：

研修会場を兵庫県神戸市内とし、同年6月に研修開催予定会場の下見を行った。

「若年認知症基礎研修」第1回目を平成29（2017）年9月5日（火）10時～16時に、神戸市産業振興センター研修室にて実施した。参加者は23名であった。

「若年認知症ファーストステップ研修」第2回目ならびに「若年認知症専門員フォローアップ研修」を平成29（2017）年12月2日（土）に実施した。前者の研修は10時～12時の開催で参加者は24名、後者の研修は13時～16時30分の開催で参加者5名であった。

事業の成果

以下の研修事業を開催した。

1. 若年認知症基礎研修

開催時期：平成29（2017）年9月5日（火）

10時～16時

会場：神戸市産業振興センター 9階会議室901

研修内容：

講義「若年性認知症コーディネーターの役割と実践」伊藤美知氏（㈲イトーファーマシー）

体験談「若年認知症の理解～介護家族の体験談を通して」山崎氏（介護家族会）

演習「模擬事例を用いたグループワーク」勝野とわ子（当法人理事）

参加者：23名

成果：

アンケート結果、100%回収。参加者の背景は介護職、看護職等が参加した。勤務先は病院、地域包括支援センターなどであった。研修の認知は配布チラシによる参加が最も多かった。自由回答にて、おおむね肯定的な評価を得た。

2. 若年認知症ファーストステップ研修

開催時期：平成29（2017）年12月2日（土）

10時～12時

会場：神戸市産業振興センター 9階会議室901

研修内容：

講義「若年認知症の特性理解と支援活動への活かし方」比留間ちづ子（当法人理事）

講義「一目でわかる社会保障制度：6つのポイントで理解し、支援に活かそう」木舟雅子

（当法人理事）

参加者：24名

成果：

アンケート結果、92%回収。参加者の背景は相談職、看護職、心理職等が参加した。勤務先は病院、地域包括支援センターなどであった。自由回答にて、おおむね肯定的な評価を得た。

3. 若年認知症専門員フォローアップ研修

開催時期：平成29（2017）年12月2日（土）

10時～12時

会場：神戸市産業振興センター 9階会議室901

研修内容：

トピックス「BPSDの理解と対応」小野寺敦志
（当法人理事）

事例演習：参加者からの事例提示2名

参加者：5名

成果：

トピックスならび事例演習の質疑応答が活発になされた。少人数であったが、参加しての評価はおおむね良好であった。

成果の広報・公表

1. 本法人のホームページの「トピックス」での、実施結果の掲示。以下にその記事を示した。

2017年9月13日掲載：9月5日（火）神戸市産業振興センターにて若年認知症基礎研修を開催しました。若年認知症コーディネーターの役割と実践を学び、介護家族の体験談をもとに事例を用いたグループワークを開催。充実した研修になりました。

2017年12月14日掲載：（記事1）12月2日AM神戸産業振興センターにて、若年認知症ファーストステップ講座が開催され多くの方に若年認知症を学んでいただきました。（記事2）12月2日PM神戸産業振興センターにて若年認知症専門員フォローアップ研修を開催、少人数でしたが充実した事例検討を行いました。研修後、恒例の懇親会を開催、皆さんと楽しい時間を過ごしました。

2. 法人の広報紙「サポセンだより」への事業実施結果の掲示。

第10号の記事「平成29年度 基礎研修・ステップアップ講座報告」「第5、6回若年認知症

専門員フォローアップ研修報告」（第6回が本事業該当）として掲載した。

今後の展開

1. 本事業の総括

関西地区における研修として、9月、12月の2回の兵庫県神戸市にて実施した。成果を総括すると、研修内容に関しては、参加者アンケート結果はおおむね良好であり、一定の研修成果を得たといえる。一方、参加者数は1回目23名、2回目の午前中実施のファーストステップ研修24名（ともに100名定員）、午後のフォローアップ研修5名（定員30名）と十分な参加者数を確保できず、収支面では、赤字計上となる結果であった。要因として、研修に関しては、関西地区は無料の研修会が多く、有料の民間研修の参入のハードルが高かったことが挙げられる。フォローアップ研修では、開催時期の問題、年2回という開催数の多さが課題として挙げられた。

2. 今後の展開

上記を踏まえ、

1. 研修開催は、関西地区以外の全国各地での開催を検討する際、開催地の団体との共催形式を取り、事業収支が赤字にならない工夫による実施を模索していく予定である。

2. フォローアップ研修については、対象となる若年認知症専門員にアンケートを実施し、年間の開催回数、開催時期、開催場所の意向を確認し、一定数の参加が見込める研修企画を立て実施していく方向を予定している。